
第3回 松田町総合戦略審議会 会議資料

〈松田町人口ビジョン・総合戦略骨子案〉

平成27年11月10日

松 田 町

■松田町人口ビジョン・総合戦略におけるシナリオの整理

- 地価の高騰等を背景に住宅地としての需要の拡大
- 小田原市を中心とする都市圏域の形成

【首都圏・都市圏の動き】

- ・小田原市が東京都心部への就業依存となっているなかで、業務核都市となる厚木と連携して県西地域の中心的都市としての機能も果たしている。
- ・1988年（昭和63年）に神奈川県への転入がピークとなっているが東京中心とした外延化が進んでいる。
- ・高度経済成長やバブル期などの景気上昇に伴った住宅需要も高まり、戸建て住宅などの購入が進んでいる。

- 国政や国策等に変更に伴う東京都心部への集中と地方の都市圏における人口減少傾向

- ・「**都心回帰**」（平成9年～22年程度）
東京都心部への人口集積が高まる一方で、地方の都市圏や市町村人口の減少傾向が強まってきている。



平成7年

平成12年

平成17年

平成22年

平成27年

【松田町】

「自然力と都市力のバランスのとれ、
開発等が進められてきた時代」

- 地区の持つ特性を活かした住宅・宅地供給

都心回帰などを背景にして、町の人口減少及び少子・高齢化の傾向が急速・急激に進行した時代

- 自然減・社会減を背景とした人口減少傾向の進行・拡大
- 都心回帰などによる東京都心部への人口集積・吸引力の高まりによる転出超過傾向の拡大
- 20～30歳代を中心とする若年層の流出が進み、年齢別の人口構成の変化
- 「転出」→「出生数・修正率の低下」→「人口減少」となるサイクルの助長
- 人口減少に伴う就業人口の減少による産業力の低下

〈総人口・世帯〉

- ・順調な増加傾向を維持している。
- ・平成7年には13,170人となり、昭和22年からの約50年間で3,215人の増加となっている。
- ・本町は、その昔から箱根超えの要衝として足柄街道の宿場町として発展と遂げてきた。

〈行政区別人口〉

- ・行政（自治会）別人口は、松田地区では平成2年の10,823人、寄地区では平成12年の2,807人をピークに減少に転じている。
- ・一方で、寄地区は昭和48年に自然休養村の指定を受け、環境整備等が進められてきた。

〈人口動態〉

- ・自然増、社会増を背景として、順調な人口の増加傾向を支えている。

（人口増加の傾向・背景）

- ・松田地区：交通至便性、住宅地
- ・寄地区：住宅地、自然環境（自然休養村）
⇒定住理由：地価や住宅等の価格帯

〈行政区別人口〉

- ・松田地区：平成2年をピークに人口減少傾向
- ・寄地区：平成12年をピークに人口減少傾向

〈人口動態〉

- ・自然減が平成15年、社会減が平成11年以降で続いている。

〈出生率〉

- ・合計特殊出生率は平成13年1.48を上限に下降

〈産業〉

- ・産業別就業人口を支える生産年齢人口の減少
- ・従業地における就業人口（昼間人口）の増加を踏まえた常住地における就業人口（夜間人口）の増加
- ・産業別就業人口（従業地）の減少（平成2年から1次：150人、2次：1,600人、3次：200人の減少）
- ・観光における入込客数の減少（松田地区：平成19年、寄地区：平成18年をピーク）

〈総人口・世帯〉

- ・平成27年 松田地区：9,294人（1,529人減）
寄地区：2,122人（685人減）

〈行政区別人口〉

- ・松田地区：駅を中心とする街なかで減少が顕著
一部地域のみ民間宅地開発で微増
- ・寄地区：周辺部の集落地での減少が顕著

【アンケート調査】

- 【転入】・理由：転勤、親族同居
・選択理由：交通便利、買物便利、親族と近い、職場が近い等
・年齢層：30～40歳代、単身・夫婦・夫婦と子ども
・居住形態：賃貸住宅
- 【転出】・理由：転勤、結婚、生活環境（将来）
・選択理由：買物便利、職場が近い
・年齢層：20～30歳代、50歳代

〈出生率〉

- ・合計特殊出生率は平成18年0.93の下限以後の平成24年までに1.17まで回復も、その後は微減の傾向にある

■松田町人口ビジョン・総合戦略骨子案における現状と課題の整理

【人口の移り変わりを踏まえ、問題として捉えるべき現状】

松田町の総人口の減少

- ・松田町全体の人口が平成7年の13,270人をピークに減少に転じ、年々減少し続けて平成22年で11,676人、平成27年では住民基本台帳ベースで11,416人となっている。また、将来的にも国立社会保障人口問題研究所による将来人口推計では平成52年(2040年)には、封鎖人口で約8,400人(8,359人)、社会移動等を含めると約7,000人(7,055人)になるとも予測されている。

若年世代の流出超過、合計特殊出生率の低下

- ・出生数の減少や死亡数の増加による自然減や転出超過による社会減の現状を背景に、人口動態としての減少傾向が続いている。これまでのバブル経済の崩壊や規制緩和等により進行していた都心回帰も、近年の転出超過傾向の弱まりから安定化してきている。
- ・転出・転入の状況等からみると30～40歳代の転入がある一方で、20～40歳代の子育て世代(若年層)の女性の流出が顕著となっている。こうした若年層の女性の流出等が、子どもの出生数や出生率の減少、合計特殊出生率で国・神奈川県平均よりも低くなっている。

生産年齢人口及び産業就業人口の減少による産業力の低下

- ・人口減少に伴う産業就業人口の減少による松田町全体の産業力が低下してきている。特に、松田町の基幹的な産業となる農林業や、町民の生活利便や暮らしを支える小売業等の就業人口の減少が懸念されている。

行政区人口の減少による地域コミュニティの弱体化

- ・行政(自治会)区での人口増減では、松田地区の新松田駅を中心とする街なかの行政区(仲町、新松田等)、寄地区は周辺部の集落を基本とする行政区(土佐原、宇津茂、虫沢田代等)で人口減少が顕著になっている。今後も更なる減少傾向が予測される一方で、松田地区での街なかの空洞化や、寄地区の周辺部の集落地区での限界集落化等が懸念される。

人口構造・支えあいのバランスの変化

- ・少子高齢化の更なる進行による人口構造(年齢階層別人口構成・人口ピラミッド)の変化が、国・神奈川県よりも速く進行している。
- ・扶助力(65歳以上人口1人を支える生産年齢人口)の減少による地域コミュニティをはじめとする支えあいのバランスがとれなくなっている。

【扶助力】

	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	H32	H37	H42	H47	H52
町全体	6.6	5.6	4.5	3.7	3.0	2.3	1.9	1.6	1.5	1.4	1.2	1.1
松田惣領	—	—	4.6	3.7	2.8	2.4	2.0	1.8	1.7	1.6	1.4	1.2
松田庶子	—	—	4.7	3.7	3.2	2.3	1.9	1.7	1.6	1.5	1.3	1.1
神山	—	—	4.9	4.6	3.1	2.4	1.6	1.3	1.3	1.2	1.1	0.9
寄	—	—	4.1	3.7	3.2	2.2	1.7	1.4	1.1	1.0	1.0	1.0
神奈川県	9.5	8.3	6.7	5.2	4.1	3.3	2.6	2.4	2.3	2.1	1.8	1.6
全国	6.6	5.8	4.8	3.9	3.3	2.8	2.3	2.0	1.9	1.8	1.7	1.5

【問題・課題の整理】

○人口減少・少子高齢化の抑制

- ・急速に進行し続けている減少傾向を緩やか(抑制)にする手立て等にスピード感を持って対応する。
- ・健全な人口構造(年齢階層別人口構成・人口ピラミッド)とする。
- ・松田町での子育て支援環境や高齢者等が暮らしやすい環境づくりを進める。
- ・若年層(子育て世代)の転出の抑制し、定住化を推進する。
- ・地域の特性(交通便利、買い物環境等)と住民のニーズを踏まえた地域づくりを進める。

○産業力の活性化(強化)

- ・地形や土地利用上の制約があり、大規模な開発等による変革ができないなかで、松田町での基幹的な産業となる農林業や商業・サービス業、観光等を地域の再生と一体となって進める。
- ・産業複合化による6次産業化、おもてなし産業の発展的な展開に伴う新たな雇用の創出と産業の活力を高める。

○地域・暮らしの維持・育成

- ・人口減少に伴い、松田地区では新松田駅周辺の行政(自治会)区等の街なかの地区、寄地区では散在する集落地でコミュニティをはじめとして地域での暮らしの維持が難しくなりつつあることから、地区内の空き家や農家住宅等を活用した定住化に向けた取り組み、地域を訪れ、イベント等を通じて地域との関わりが持てる取り組みを進める。
- ・農村集落地環境の保全・活用を進めていくなどの地域環境の向上を図り、特色のある地域づくりを進める。
- ・人口減少や少子高齢化により人口構造が変化し、限界集落化等も懸念されているなかで、健全な相互扶助のバランスのとれた地域づくりを進める。
- ・魅力と特色ある地域づくりに取り組んでいくほか、地域の実情や状況等に対応した取り組みを進める。

■松田町総合戦略骨子案

【基本目標・将来像】

松田町総合戦略においては、「松田町第5次総合計画・まちづくりアクションプログラム（平成27年3月策定）」、なかでも定住促進に向けた「まちづくり戦略」を基本としながら進め、松田町の抱える問題・課題に対応した戦略性を持った基本目標と具体的な施策・事業として取りまとめる。

〈松田町第5次総合計画 将来像〉

「緑と清流のまち、ゆとりを楽しむきらめく松田」

～自然と街の融合したおもてなしのまち～

〈松田スタイル：「住みやすさ・生活しやすさ」の追及〉

- 松田山からの富士山、大島は絶景で、箱根の外輪山がとてもきれいに見えるまち
- 緑と水を活かした景観がとてもきれいなまち
- 地域の資源との交流・ふれあいが活発な賑わいのあるまち
- 地域の資源を活かし、生きがいを持って働けるまち
- 緑ゆたかな住環境が整備されたまち
- だれもが生涯現役で暮らすことができる医療・福祉の環境が整ったまち
- 豊かな自然と豊富な歴史・文化資源を活かしたまち
- 子どもを持ちたいという親の願いを十分にかなえられるよう、子育て環境が充実したまち
- 農業と連携した魅力ある観光のまち

「おもてなしのまち」とは…

松田創生に向けた上記の目標や将来像を達するうえでは、さまざまな施策・事業を展開することとなる。この際、交流人口の増加から定住化の促進に向けて行う取り組みには、従来からの松田の良さ、強みを認識・情報共有し活用していくことが必要となる。さらにこのような取り組みには心がこもっていることが肝要であることから、以下に掲げたオール松田「おもてなし」宣言を理念に据えたまちづくりを推進していく。

オール松田「おもてなし」宣言（平成27年8月22日）

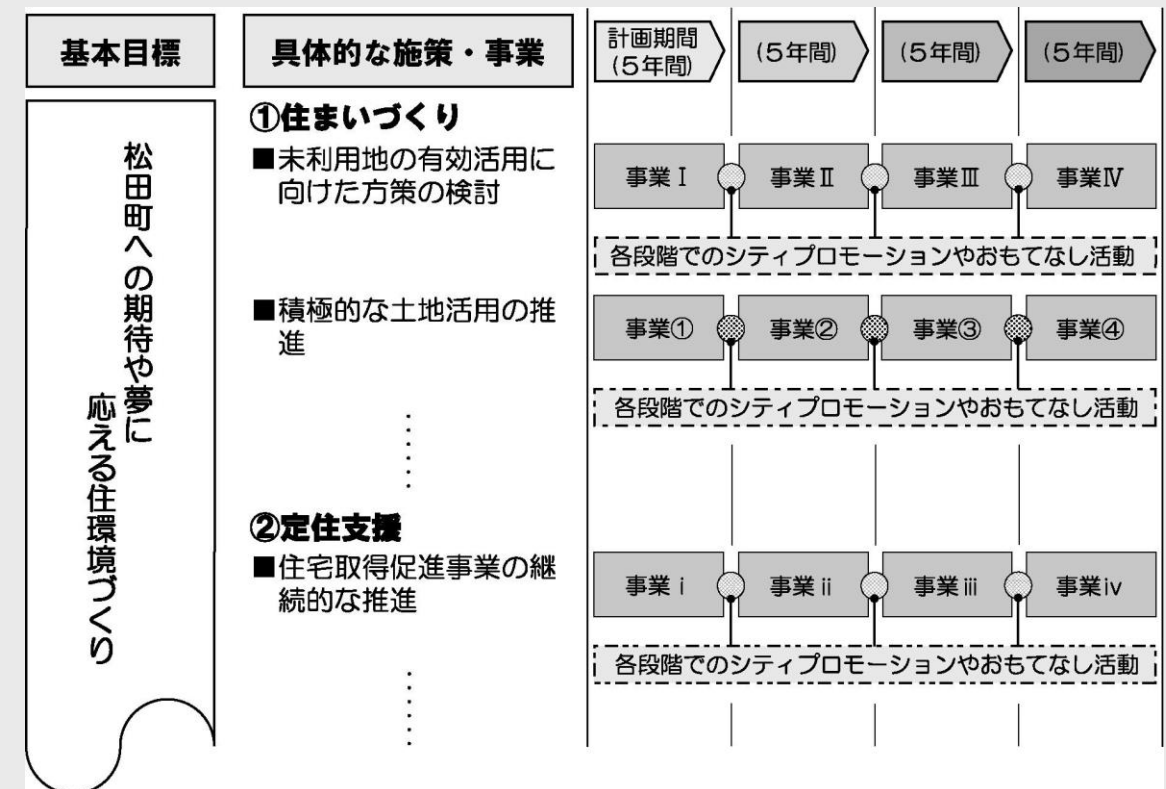
協働のまちづくりを推進している私たちは、松田町を訪れるお客様をお迎えするにあたり、一期一会の精神で、一人ひとりとの出会いを大切にしながら、松田町の持つ魅力をお伝えして参ります。お客様にとって松田町が素晴らしい思い出の地となり、再び訪れていただけますよう、感謝の気持ちで心のこもった「おもてなし」をお約束する、オール松田「おもてなし」宣言をいたします。

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1. 明るい笑顔で、おもてなし | 2. 爽やかなあいさつで、おもてなし |
| 3. 温かな心づかいで、おもてなし | 4. クリーンな環境で、おもてなし |
| 5. 安全・安心なエネルギーで、おもてなし | 6. こだわりの松田ブランドで、おもてなし |
| 7. 記憶に残る体験で、おもてなし | 8. 豊かな美しい自然で、おもてなし |
| 9. 伝統の薫る文化や行事で、おもてなし | 10. ICT設備が充実した環境で、おもてなし |

【総合戦略の取り組みの視点】

次に掲げる5つの項目を踏まえながら総合戦略に取り組んでいく。

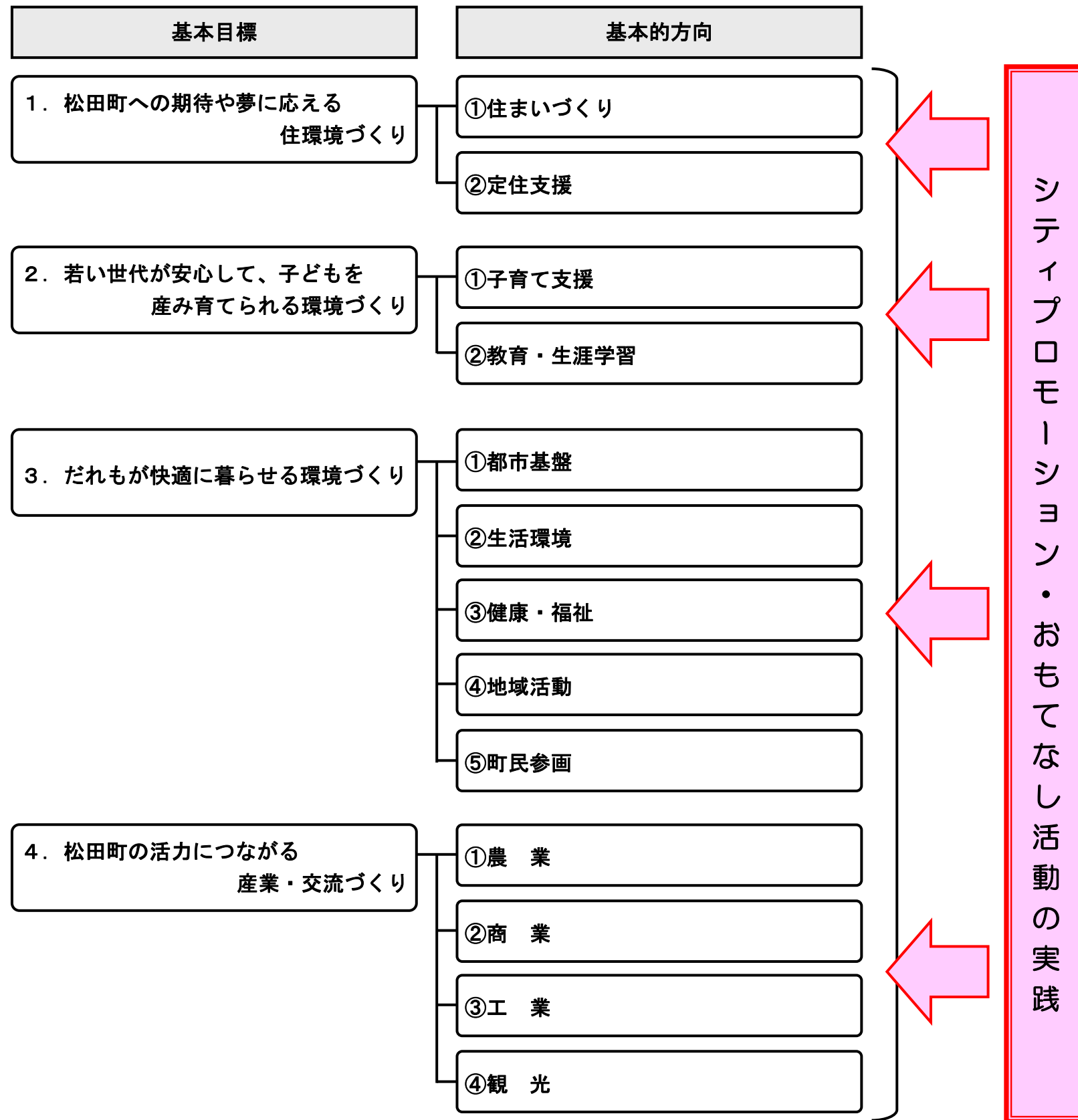
1. 松田町人口ビジョン・総合戦略での取り組みでは、中長期的な視点に立ちながら、施策・事業の展開イメージを共有し、継続的な取り組みにつなげていく。
2. 中長期的な施策・事業の取り組みと合わせ、まちづくりを基本としたシティプロモーション活動やオール松田「おもてなし」宣言に基づいた様々なおもてなし活動を積極的に展開していく。



3. 産・官・学・金・労・言の連携した取り組みによって地域の持続的な発展につながり、さらに、町を訪れた人が松田町に「住みたい」「住み続けたい」という想いにつながる取り組みを進める。
4. 単独市町としての取り組みだけでなく、県西地域の2市8町（松田町、小田原市、南足柄市、中井町、大井町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町）や神奈川県等を含めた広域的な連携による取り組みを進める。
5. 松田地区や寄地区、個別行政（自治会）区等の特性や実情に応じて、柔軟かつ戦略的な取り組みを進める。

【総合戦略の施策の方向】

■総合戦略 施策体系



基本目標Ⅰ 松田町への期待や夢に応える住環境づくり

【目標】

交通の至便性や、都心に近い立地、豊富な自然環境等の強みと併せて、定住化に向けた施策を積極的にPRする中で、町有地を含む未利用地の積極的、計画的な土地利用を図ります。特に、定住化に向けて呼び込むターゲットを明確にし、既存の空家等の活用も図りつつ、整備手法も民間の力を取り入れながら実施していくものとします。

【具体的な施策と重要実績評価指標（KPI）】

①住まいづくり

- ・未利用地となっている町有地の有効活用に向けた方策の検討を進めるとともに、積極的な土地活用を図ります。
- ・民間の住宅建設を促進しながら、特色のある良好な住宅地開発を誘導します。
- ・町民や時代のニーズに対応して町営住宅の建設を進めます。
- ・地元不動産等と連携しながら空き家バンク情報を充実していくとともに、空き家の改修やリノベーションを進め、積極的な活用を図ります。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値

②定住支援

- ・松田町への定住化を促進するため、継続して住宅取得促進事業に取り組んでいくとともに、新制度の研究・実行・周知を進めます。
- ・町内の民間賃貸住宅の居住者への家賃補助事業や、空き家の利用者への改修等の補助事業の活用を図り、定住支援を進めます。
- ・地元不動産や金融機関等と連携を図りながら、住宅取得に向けた支援を進めます。
- ・将来的な本町への移住や定住に向けて、民間企業等と連携しながら「お試し移住」等の取り組みを進めます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値

基本目標Ⅱ 若い世代が安心して、子どもを産み育てられる環境づくり

【目標】

小児医療費助成、不妊治療費助成、水道料金助成など、町独自の子育て世帯への経済的な負担軽減や、保育所・学童保育・子育て支援センターなどの施設拡充を継続していくとともに、「子育てしやすい町」というイメージの定着が図れるような広報戦略を展開します。

また、地域やさまざまな主体と連携し、ICT・英語などの特色ある教育環境を整え、対外的に発信するとともに、将来、松田町に住みたいと思われるような教育施策を推進します。

【具体的な施策と重要実績評価指標（KPI）】

①子育て支援

- ・次代を担う子どもたちを地域で育む子育て支援センターやファミリー・サポートセンター事業の充実を図ります。
- ・子どもを持つ親の負担を軽減するため、継続して小児医療費の助成に取り組んでいくとともに、本町の独自事業として展開している子育て世帯支援事業の充実を図ります。
- ・安心して子どもを産み育てられる環境づくりを進めるとともに、不妊治療費の助成の充実を図ります。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値

②教育・生涯学習

- ・家庭、学校、地域が一体となって次代を担う子どもの教育環境を整え、ふるさとを愛し、豊かな人間性とたくましく生きる力を育みます。
- ・子どもたちが安心して学べる環境づくりに向けた学校施設の整備を進めていきます。
- ・学校ICT環境の整備や英語教育の充実等、教育環境の強化・充実を図ります。
- ・子どもたちの個々のニーズに対応した学習支援や介助員の配置を本町の独自事業として進めます。
- ・保護者の負担軽減を図るため、町独自の事業として継続して給食費助成を進めます。
- ・松田の有する自然や文化を活かした取り組みを進めます。
- ・町民マイスター認定制度を制定し、人材や資源の掘り起こしと活用を図り、町民の誇りを醸成していきます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値

基本目標Ⅲ だれもが快適に暮らせる環境づくり

【目 標】

県西地域の北の玄関口としての役割や将来のあり方を念頭に、町民のニーズを反映し、従来の駅周辺イメージを一新させる整備を推進します。

また、おもてなしの理念を浸透したなかで、ゴミのない美しい町を目指し、豊かな自然・生活環境を保持するため、地域のつながりを再確認し深めていきます。

さらに、地域の福祉や文化活動の充実が図られるようにボランティア等の人材育成を図り、やりがい生きがいに高めていきます。

【具体的な施策と重要実績評価指標（KPI）】

①都市基盤

- ・新松田駅南口駅前広場等の効率的・効果的な整備を進め、早期完成を目指します。
- ・松田町の玄関口となる新松田駅北口周辺の整備の在り方についての検討とあわせて、整備に向けた調査・計画を進めます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値

②生活環境

- ・町民が安心して通行・利用できる歩行空間の確保を進めます。
- ・寄地区における生活排水処理施設の整備を計画的に進めます。
- ・地域における自主的な清掃活動を広げるよう支援します。
- ・ホテルが生息できる環境づくりを進めます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値

③健康・福祉

- ・健康増進計画に基づく、町民の健康づくり事業を広く展開します。
- ・地域包括ケアシステムの構築を進め、地域が主体となった「たすけあい」「ささえあい」の体制づくりを進めます。
- ・地域包括支援センターの機能強化とともに、介護等に伴う高齢者向けの相談や地域支援事業の充実を図ります。
- ・地域での高齢者や障害児者の災害時非難等の支援体制づくりを進めます。
- ・地域福祉に資する事業の開発・導入、事業所誘致と連携を進めます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値

④地域活動

- ・ボランティア等の指導者を発掘していくとともに、様々なサークル団体等の育成・支援を進めます。
- ・松田町の地域文化の保存・継承していくため、文化活動団体の育成を進めます。
- ・身近な地域での活動団体の育成していくとともに、活動への支援を継続して進めます。
- ・地域での活動の核となる地域協議会の立ち上げと主体的な運営を支援します。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値

⑤町民参画

- ・町民の身近な意見等を把握し、行政運営に反映していくため、地域懇話会等を定期的で開催します。また、ワークショップ等を通じて町民参加を促進しながら、町民と一体となった協働のまちづくりを進めます。
- ・広報紙「広報まつだ」や公式ホームページ等を通じて、町民の様々な意見や声を聞く場の充実を図ります。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値

基本目標Ⅳ 松田町の活力につながる産業・交流づくり

【目 標】

農業については、鳥獣被害対策を充実したなかで、荒廃農地や後継者問題を、販路の拡大や6次産業化等の新たな手法を取り入れ、魅力ある（収入を確保できる）産業としての復活を目指していきます。

商工業については、専門家等の知見を取り入れながら、様々な機関と連携及び支援体制を確立し活性化を推進します。

観光においては、おもてなしの精神で来町者に感動を与える体制を整備し、ブランド化した松田の魅力を、積極的かつ広範な広報活動を実施します。また、より多くの観光客を誘客するためには、外交人観光客の呼び込みも視野に、神奈川県や近隣市町との広域的な連携による取り組みを推進します。

【具体的な施策と重要実績評価指標（KPI）】

①農 業

- ・農業を中心とする新たな6次産業化の創造を進めます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値

②商 業

- ・松田町の特性を活かした特産品の開発を進めます。
- ・新松田駅周辺等における基盤整備事業に伴う商店街の活性化に向けた検討を進めます。
- ・買い物不便地区の解消に向けた移動販売業者への経営を支援します。
- ・地場産品の販売を積極的に進めます。
- ・空き店舗を活用した荷物や子ども一時預かり等の買い物対策を進めます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値

③工 業

- ・金融機関等と連携して起業化への支援を進めます。
- ・一定規模の未利用地等における企業誘致を推進します。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値

④観 光

- ・松田町の新たな観光資源等を発掘していくとともに、積極的な活用を図ります。
- ・松田町のPRに向けた松田ブランドの認定を進めます。
- ・周辺市町（松田町、南足柄市、山北町、開成町、大井町の1市4町）と連携した情報発信や取り組みを進め、県西地域の活性化を図ります。
- ・国際交流を積極的に進めます。
- ・みかんやお茶、ごぼう等の地場産品の積極的なPRと販売を進めます。
- ・オール松田「おもてなし」宣言に基づく、おもてなし事業を町民と一体となって積極的に進めます。
- ・松田町のPR活動をホームページやフェイスブック等を活用しながら、積極的に情報発信を進めます。
- ・分かりやすい観光案内板や道標の設置、ベンチやトイレ等の施設の整備を進め、松田町を訪れる人々の利用環境の充実を図ります。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値

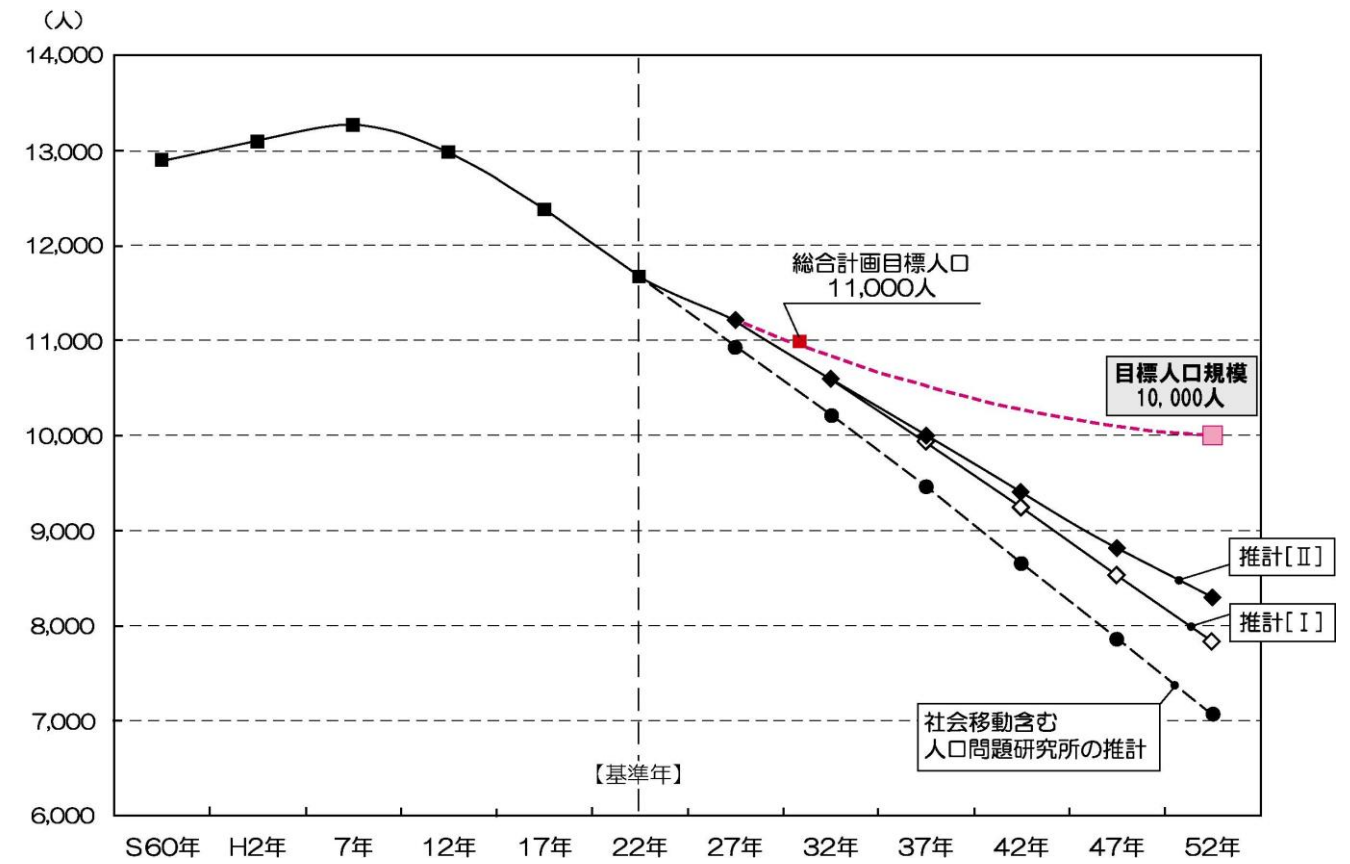
【人口の将来展望】

■将来の目標人口

平成 52 年 (2040 年) : 総人口 10,000 人

- ・松田町を含めて全国的な潮流となっている人口減少や少子・高齢化が進行、人口問題研究所による推計結果や創成会議における消滅可能都市等の厳しい状況が示されているが、松田町としても現実を踏まえながら、町の有する豊かな自然環境や景観、眺望などをはじめとして、昔からの交通の要衝としての利便性や町の様々な資源を活かし、PRやプロモーション活動等の情報発信・提供を積極的に進め、「松田町を訪れ・知って・楽しみ、また来たくなる」ように魅力を高め、交流人口を拡大し、将来的に「松田町に住みたい・住んでみたい」と思える町をめざします。
- ・また、厳しい状況になかでも地域や松田町全体が元気や活気・活力のある町としての目標・期待として、将来の総人口規模 10,000 人を想定します。
- ・さらに、現在の平成 27 年度からの「松田町第 5 次総合計画・新アクションプログラム」における将来人口の検証では当初の目標人口 11,000 人を達成できる動きともなっており、今後とも継続的・発展的な取り組みを展開し、平成 52 年 (2040) での総人口規模 10,000 人を目指し、様々な取り組みを進めていきます。
- ・その他に、これまでの松田町の歴史のなかで戦後から寄村と松田町が合併し、新制松田町としてスタートをした昭和 30 年当時人口が 10,190 人となっており、松田町の人口規模として約 10,000 人の都市機能・規模を有しています。
- ・さらに、都市計画や下水道計画（酒匂川流域関連松田公共下水道計画や生活排水処理計画）での計画人口を約 10,000 人で想定して事業を進めているほか、学校等の教育施設における普通教室が人口減少に伴う空教室等となる非効率をなくすため、総人口規模 10,000 人を確保します。

■将来人口の推計



■将来人口の推計

- 人口問題研究所で公表する社会移動を含めた将来推計
- 推計[I]：合計特殊出生率が 2060 年 (H72) に 2.07 と想定し、社会移動は人口問題研究所で公表している移動率の指標に基づいた推計
- 推計[II]：合計特殊出生率を 2060 年 (H72) に 2.07 と想定し、社会移動数（社会減）が 2040 年 (H52) に収束するとした場合の推計

	S60年	H2年	7年	12年	17年	22年	27年	32年	37年	42年	47年	52年	
国勢調査 (住民基本台帳)	12,904	13,097	13,270	12,987	12,384	11,676	11,208	—	—	—	—	—	
人口問題研究所で公表している社会移動を含む推計							10,933	10,218	9,450	8,644	7,844	7,055	
推計[I]							合計特殊出生率を2060年(H72)に2.07 社会移動を人口問題研究所の指標に準じる場合	11,208	10,597	9,940	9,244	8,521	7,821
推計[II]							合計特殊出生率を2060年(H72)に2.07 社会移動を2040年(H52)に収束する場合	11,208	10,642	10,071	9,488	8,909	8,365

